シャワー工法

一般住宅のお庭やお墓の雑草対策など、
簡単にできる施工方法です。

【施工事例】

【施工手順】

01. 下地処理

雑草や障害物を取り除き、コンパクター等で転圧し、施行場所を整正してください。軟弱な路盤の場合は、砕石を10㎝～20㎝程度入れてください。

02. 敷き均し

「透塊ソイル」を均一に敷き、コテ等でならします。

03. 散水

水をシャワーや霧状にして水溜りが出来ないよう、ゆっくりとまんべんなく水をかけてください。
（1㎡あたり15ℓ～20ℓ）

04. 完成

固まるまで数日かかります。完全に固まるまでは重い物を載せたり、先の尖った物で突いたりしないようにしてください。（表面剥離防止の為、冬季5度以下の場合は養生してください）

【施工ポイント】

下地整地し、40m/mの場合（強度を保つ為）ソイル40㎜を引き、最初は水を噴霧状、及び霧状で表面にかけてください。※ソイルが粉状の為、飛散防止

Point 01
その後約2時間、表面を固化し、後はたっぷり水をかけます。
水が【溜まる→引く】を約3回程度繰り返し、最後に水がまんべんなく中まで浸透しているか確認してください。（確認方法は棒状の物で刺し、ソイルが湿っていれば浸透しています）
その後、冬季は養生し、3日～7日で出来上がりです。

Point 02
植栽回りは、木の幹から10m/m～20m/m外して透塊ソイルを引いてください。
植栽のすぐそばまで引いてしまうと、幹が太くなった場合クラックの原因になります。

Point 03
冬季施工は表面剥離防止の為、水と防凍材（※1）・表面硬化剤（※2）を混合し、散布してください。
（※1、※2は、ホームセンター内にて販売しております）

練り工法

駐車場、犬走り、
その他強度が必要な場所の施工方法です。

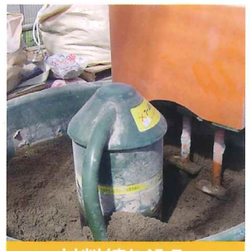
メリット 土舗装で照り返しが少ない。　**デメリット** 強度重視の為、透水は無くなります。

【施工事例】

【施工手順】

01. 下地処理

下地は平地同様、雑草や障害物を取り除き砕石・砂を入れてから十分に転圧をかけてください。



02. 材料練り込み

透塊ソイルと水をミキサーなどで練り込みます。
混合割合・・・含水率16%／ソイル25kg（1袋）：水4kg（4ℓ）
練り込み時間・・・約5分
※練り込みの際、ダマが出来やすいので時々手でほぐしてください。
※乾燥の激しい時は含水率を17%程度まで上げて下さい。

03. 材料敷き均し・転圧

練り込んだ透塊ソイルをそのままコテにて転圧し仕上げます。

04. 養生・完成

固まるまで数日かかります。完全に固まるまでは重い物を載せたり、先の尖った物で突いたりしないようにしてください。（表面剥離防止の為、冬季5度以下の場合は養生してください）

【施工ポイント】

Point 01
下地整正し、砕石C＝40m/mを引き、締め固め、その後砂目を目つぶしします。（砕石はｔ＝120m/m以上）

Point 02
ソイル練り工法（モルタル工法と同等）
ソイルは50m/m以上
モルタルミキサーに透塊ソイルと水（25㎏に対して水16%～18%）を入れ、6分～8分攪拌します。
その後、現場にてソイルを引き、木ゴテ、金ゴテで仕上げます。
目地は（木・ゴム）均等に入れてください。

下地・・・メッシュ（40m/m浮かす）／ソイル80m/mで大型可／強度約13ニュートン（1ニュートン9.8kg）

樹木への影響について

製品成分による影響

透塊ソイルは、天然の真砂土・山砂と無機系の固化材を主成分としています。また樹木に悪影響を及ぼすような薬品類・重金属類は一切含有していないので生長を阻害する事はありません。成分分析結果からも「天然の土砂と同等の成分である」と専門機関により評価されています。

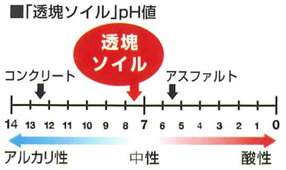
排水による影響

透塊ソイル層を透過した水は環境庁第59号「人の健康の保護に関する環境基準」に沿った分析結果より溶出試験はすべて基準値をクリアしています。

ｐｈ値による影響

透塊ソイルは施工直後、土壌ｐｈ値の上昇が確認されていますが、施工後1ヶ月程度で元のｐｈ値に回復します。日本の土壌が酸性傾向にあることから、畑作などでは土壌改良が行われているのが実情です。このことからも植物に対する直接的な悪影響は微小と考えられます。

■「透塊ソイル」pH値



透水・保水効果

透塊ソイルは優れた保水性を有し、雨水等の一時貯留効果が樹木の乾燥を防ぎます。植物を夏の直射日光や乾燥から保護する機能をもっていると考えられます。

過去の実績

これまで透塊ソイルを植物周辺に使用した実績は数多くありますが、植物の生長を悪化させたり枯れた事は皆無です。